

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 11月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371番地 (電 話) 0995-74-1488
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成21年10月30日

【情報提供票より】(21年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,250 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗野病院、上原歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山間に、特別養護老人ホームと隣接して建てられた設立10年の実績を持つホームである。クリスマスにむけた飾り付けの済んだ玄関を入ると、廊下の白い壁に利用者のパッチワークが綺麗に飾られていたり、中庭には利用者が作った干し柿が干してあったり、季節感のある日常生活がうかがえる。協力医療機関は認知症センターとして指定を受け、専門医が健康面等の支援を行い、連絡は密に取られている。外部評価や研修に対する職員の意識が前向きで、管理者と職員が同じ方向性を持ち、サービスの向上に取り組む原動力となっている。職員の声かけは丁寧で、利用者の動きを一呼吸待っている。それが利用者の自主性につながっているのか、利用者の活気のある暮らしが印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者は積極的な姿勢で評価に取り組み、職員ミーティングで昨年度の外部評価結果を伝達し、改善内容を話し合っている。すべての取り組み項目において改善に努めることにより、ケアの質の向上がみられ、職員の達成感も感じられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、毎月のミーティングで時間をかけて話し合い、まとめたものである。「取り組んでいきたい内容」の記入は具体的で、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年の外部評価以降、2回開催され、地域包括支援センター、町福祉課、地域代表、元民生委員、家族代表などの参加がある。昨年度の外部評価結果に対する取り組み内容などが紹介され、それに対する出席者の意見や質問などがあり、有意義な会になっている。しかし、2カ月に1回以上の開催に向けてさらに取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	第三者委員を決め、玄関に掲示するなど家族が意見や要望を表しやすいような配慮がみられる。職員が苦情などを把握した時には、苦情・相談記録に取り上げ、解決策を話し合い、運営者や家族に報告するほか、日常の要望は申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周囲に民家が少ない環境ではあるが、隣接する特養の利用者や小中学生との交流、地域行事への参加、買い物での知人との会話など、できるだけ機会を見つけて地域との関係づくりに力を入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前年までは法人の運営理念を基にサービスを提供していたが、外部評価後に職員全員でグループホーム独自の理念作成に取り組んだ。その結果、「敬愛・生きがい・和」の理念が作られ、その中に「家族や住み慣れた地域の人たちと触れ合いながら」と、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務やミーティングの中で折に触れ理念を確認し介護に取り組んでいる。また、作成された理念は事務室やホールなどに掲示し職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。さらに、運営推進会議や家族の面会の際に配布し、関係者にも紹介している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周囲に民家が少ない環境ではあるが、隣接する特養の利用者や小中学生との交流、地域行事への参加、買い物での知人との会話など、できるだけ機会を見つけ地域との関係づくりに力を入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者の評価に取り組む姿勢は積極的で、昨年度の外部評価結果を職員ミーティングで伝達し、改善内容を話し合い、すべての取り組み項目で改善への取り組みが行われていた。今回の自己評価は毎月のミーティングで時間をかけて話し合いまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価以降、2回開催され、地域包括支援センター、町福祉課、地域代表、元民生委員、家族代表などの参加がある。昨年度の外部評価結果に対する取り組み内容などが紹介され、それに対する出席者の意見や質問などがあり、有意義な会になっている。しかし、2カ月に1回以上の開催に向けてさらに努力が期待される。	○	運営推進会議は、外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得たりするための貴重な機会である。外部評価に対する改善経過のモニター役としても適任で、さらなるホームのサービス向上にむけて、定期的な開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当窓口へ出向いたり電話により、積極的に相談や情報交換を行っている。また、毎月1回開催される介護支援専門員の会合でも町の担当者と情報交換の機会を確保している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が少なくとも毎月1回はある。利用者の暮らしぶりを伝えたり、職員の異動や金銭管理について説明をし、家族による出納簿の確認も行われている。ホーム便りも毎月配布し写真などを利用して利用者のようすを紹介している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話で家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を決め、玄関に掲示するなど家族が意見や要望を表しやすいような配慮がみられる。職員が苦情などを把握した時には苦情・相談記録に取り上げ、解決策を話し合い、運営者や家族に報告するほか、日常の要望は申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、過去1年間の異動はない。異動がある場合には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修や中堅研修を利用したり、ホーム内では年間計画を立てた研修が行われている。職員の研修に対する意欲は高く、資格の取得や施設外研修への参加も積極的である。管理者は研修受講の際勤務の調整をしたり、受講費を法人が負担するなどの支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐地区グループホーム協議会での研修会や介護支援専門員の勉強会(ゆっかせん会)で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけ本人や家族にホームの見学をしてもらっている。施設からの入居の場合は管理者などが訪問し、心配や希望を聞き取り、本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらうなどの協力を求め、ともに支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法や畑仕事、縫物など得意なことを教えてもらったり、行事や季節の習わしを教えてもらうなど、学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者同士の助け合いや支えあいの場を提供し会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や意向を基に、診療時に主治医や嘱託医と、家族とは面会の際に、相談し計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合うことで、職員の気づきやくみ取った利用者の意向を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画を毎日確認し、計画にそって実施したサービスを記録している。さらに、毎月1回は評価を行い、状態に変化があり計画の見直しが必要な場合は、担当者会議を開いて再度計画を作成している。また、状態に変化がなくても6ヶ月毎にアセスメントを行い新しい計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援など柔軟に対応している。また、隣接のデイサービス利用者の訪問を受け入れゆつくり会話を楽しんでもらったり、当ホームから書道を習いに行ったりと、地域の知人との交流や楽しみを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、協力医療機関の医師の訪問や隣接する特養の看護師との毎日の情報交換により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、その際に利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針について昨年より取り組んでいる。入居の際家族などに説明し、入居後は本人や家族の気持ちを確認しながら、記録に留め、対応方針を主治医と話し合い、決めている。しかし、当ホームの方針を明文化したものはなく、重症化や終末期における対応について職員全員の共有はこれからの課題である。	○	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合い、職員とも共有を図ることが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の作物を収穫したり、買い物に行ったり、献立によっては入居者と職員と一緒に調理を楽しんだりしながら、生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。歯科衛生士による口腔ケアを行うことで口内炎の予防や誤飲性肺炎を防止し、食事を安心しておいしく食べられるような支援も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。また、入浴を嫌われる方にも入浴時間帯や声かけの仕方を工夫して2日に1回は入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・縫物・書道など生活歴から好きなことを見つけたり、入居後に新たに力を引き出したりしながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。訪問時にも利用者が、時間をみて自主的に洗濯物を取り込んだり、書道に出かけるために職員に声をかけるなど、利用者の活気ある行動を見かけた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見などの行事、買い物、墓参りなど、計画に組み入れながら家族と協力し外出の機会を提供している。また、天気の良い日は散歩や畑仕事、日光浴など、戸外に出るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は夜間を想定した避難訓練や消火訓練を行い、スプリンクラーの設置も行った。さらに、新たに風水害や地震についてもマニュアルを作成し、職員間で共有を図ったり、地域の方にも呼びかけ、協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量やおおよその飲水量を毎日把握し、排泄状態も観察しながら体の状態を判断しケアに活かしている。栄養バランスや献立については管理栄養士にアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。また、一人ひとりの能力を見極め小さめに刻む、そばで見守るなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	回廊式の広い廊下にソファが置かれゆったりと話ができ、壁には利用者の作品が飾られている。トイレは2部屋に一つ設置され利用しやすくなっている。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理のようすが感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋とフローリングの部屋がある。各部屋に洗面台が配置され、使い慣れた家具や仏壇、思い出の写真をはじめ、漬物や趣味の品など利用者の馴染みのものが多く見られる。また家族とも相談しながら部屋作りをしている。		